

# 東電福島第1原発事故による 農畜産物汚染とJAの対応

—それでも地域のど真ん中のJAを目指して—



2011.12.8 第12回JA人づくり研究会  
JA新ふくしま代表理事専務 菅野孝志

## 1、検証この9か月

3月11日午後2時46分東北太平洋沖大地震の直撃を受け、我がJAの職員は一斉に屋外に飛び出した。我々の経験を超えるものでありこの世の最期をも思わせるものであった。隣接する民家の大谷石塀は、ガタガタガターンと音を立て程なく崩壊した。小学生の帰宅時間帯であったにも関わらず子供たちの被害は0。先生たちの機転と対応に感謝。本当にうれしかった。

我がJA新ふくしまは、組合員と利用者いわゆる地域の方々の経済的・教育的・文化的・地理的な「地域のど真ん中にあるJA」いわゆる「皆の心の中にあるJA」を目指し取り組んできた。この震災、原発事故、農産物の汚染、風評実害を蒙る中、その活動や運動が本物なのか、大地に根を張りえたのか。そして未来へ繋げるものに成り得たのか。

## 2、福島市(川俣町)の概況

世帯数 117, 550世帯 (H19.10)

人口 312, 126人 (H19.10)

農家数 5, 646戸 (H22)

経営耕地面積 (H22)

田 2, 779ha 畑 1, 906ha

樹園地 2, 055ha 合計 6, 740ha

平成21年度福島市(川俣町)農業粗生産額 232億円

品目	生産額(億円)
果実	117.4
米	34.1
野菜	26.5
畜産	32.3
花卉	14.9
工芸・その他	6.8



### 3、JA新ふくしまの概況



平成6年2月1日市内8JA合併・平成19年2月1日JA川俣飯野と合併  
(平成23年1月末)

#### 組織の概要

正組合員	11, 574人
准組合員	13, 088人 合計24, 662人(法人等含む)
役職員	役員(平成22年4月9日理事会制へ変更)
理事	38名(常勤5名)
監事	8名(常勤1名)
職員 正職員	426名
嘱託臨時職員	186名 総職員数 612名

#### 主要事業

販売品取扱高	8, 453百万円
購買品供給高 (関連会社)	3, 155百万円
貯金	5, 200百万円
貸付金	174, 028百万円
長期共済保有高	49, 475百万円
経常利益	870, 073百万円
	360百万円

## 4、東日本大震災と原発事故

### (1) 第1ステージ「組合員の暮らしの復旧」

① 対策本部の立上げ、暮らしの確認、被災者への炊出し



3月14日



3月20日



3月25日

※女性部と一般ボランティアによる連日の炊き出し

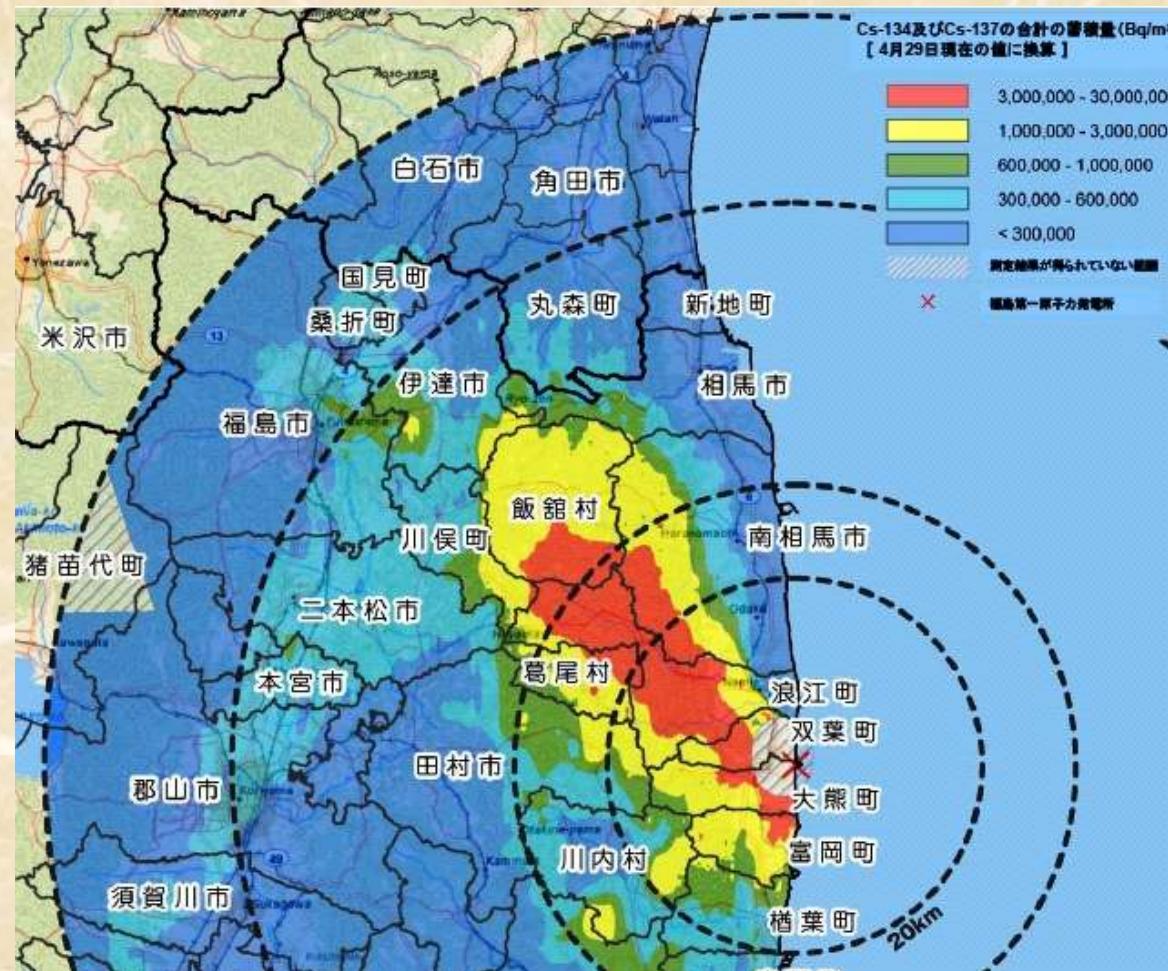


事務所内外の惨状



## (2) 第2ステージ「五重苦の福島」

### ① 忍び寄る原発事故と放射能汚染・出荷制限・風評被害・政府統治機能不全



## ②安全安心の地産地消は何処に、直売所苦渋の選択



3/27 農産物直売所運営委員会緊急会議



閑散とする農産物直売所



4/9 蓮舫大臣が直売所ここらを視察



3/29 出荷停止による品不足が続き、やむなく  
他県産JAグループの農産物を中心に販売

### ③生産活動にマスコミとHP情報「がんばるぱっく」

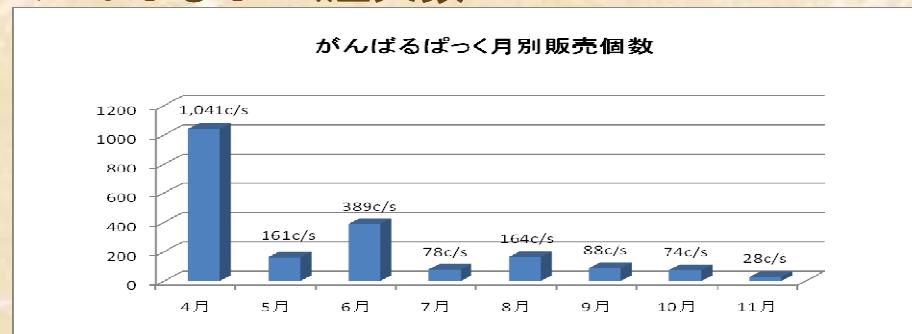


“今、出来ることをやっていこう！”  
組合長がラジオを通じ組合員へエール！



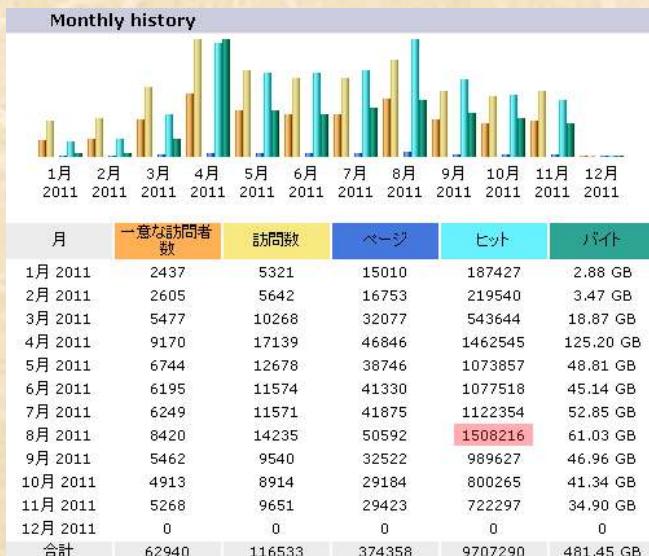
がんばるぱっくがネット上で大ヒット、  
NHKの取材を受ける

#### がんばるぱっく注文数



楽天ショッピングでも上位独占

#### JA新ふくしまホームページアクセス数



#### ④原発事故農業災害復興連絡会議設置と緊急組合員集会



福島原発事故災害農業復興連絡会議を設立

JA、福島市、川俣町、同市土地改良区、  
同市・町農業委員会、JA福島中央会、  
全農福島、県北酪農業協同組合、  
県北農業共済組合の部課長ら20人で構成

組合員からの悲痛な声！  
原発事故の影響による農作業の遅れや  
被害対策の遅れについての不安

福島の営農継続に向けて集会、約3,000人が出席



## ⑤定まらぬ政府の対応



4/14 計画的避難区域に指定された怒りの山木屋地区組合員集会

### (3) 復興への槌音と決意

#### ① 営農再開へGO、共選場での第17回通常総代会



「東日本大震災及び原子力発電所災害からの復興に関する特別決議」が満場一致で承認

総代からは“原発はいらない”の声！

#### ② 科学的根拠に立脚した営農(放射線測定・土壤分析センター設置要請)



### ③原乳出荷再開の喜びと異変(農家・観光農園協会・学校教育支援事業)



原乳出荷再開



屋内での学校支援事業  
(屋外のイベントは全てキャンセル)

## 観光農園協会からのS. O. S

風評被害による観光客の激減 → ももの販売ルート確立への不安  
JAへ出荷要請へ… 頼られるJAの本領発揮！

“JAが責任を持って販売する！”  
吾妻組合長の堅い決意

役職員も不眠不休での共選作業



#### ④スピード感ある損害賠償への取組み



第2回福島原発事故災害農業復興連絡会議



組合員への損害賠償説明会



原発事故損害賠償支援チームの設立

## ⑤TPP反対署名35, 900人



戸別訪問での署名活動



JA福島中央会を通じ農林水産省へ提出

原発の対応に追われる中、TPP反対に向け  
しっかりと地道に行動継続！



街頭での署名活動

## 5、農産物汚染(モニタリング)と販売促進

### ①放射線とトレーサビリティとモラルの狭間で販売促進



各地で指導会の開催



全国を駆けめぐりトップセールスの展開

国県の分析状況(平成23年11月30日分)(原乳・水産物、肉、鶏卵等含)

	地 区	検体数	検 出	未検出
果 実	福島市	281	216	65
	川俣町	12	12	0
野 菜	福島市	133	24	109
	川俣町	59	16	43
米	福島市	64	29	35
	川俣町	16	3	13
分析総数	福島市	448	269	209
	川俣町	87	31	56

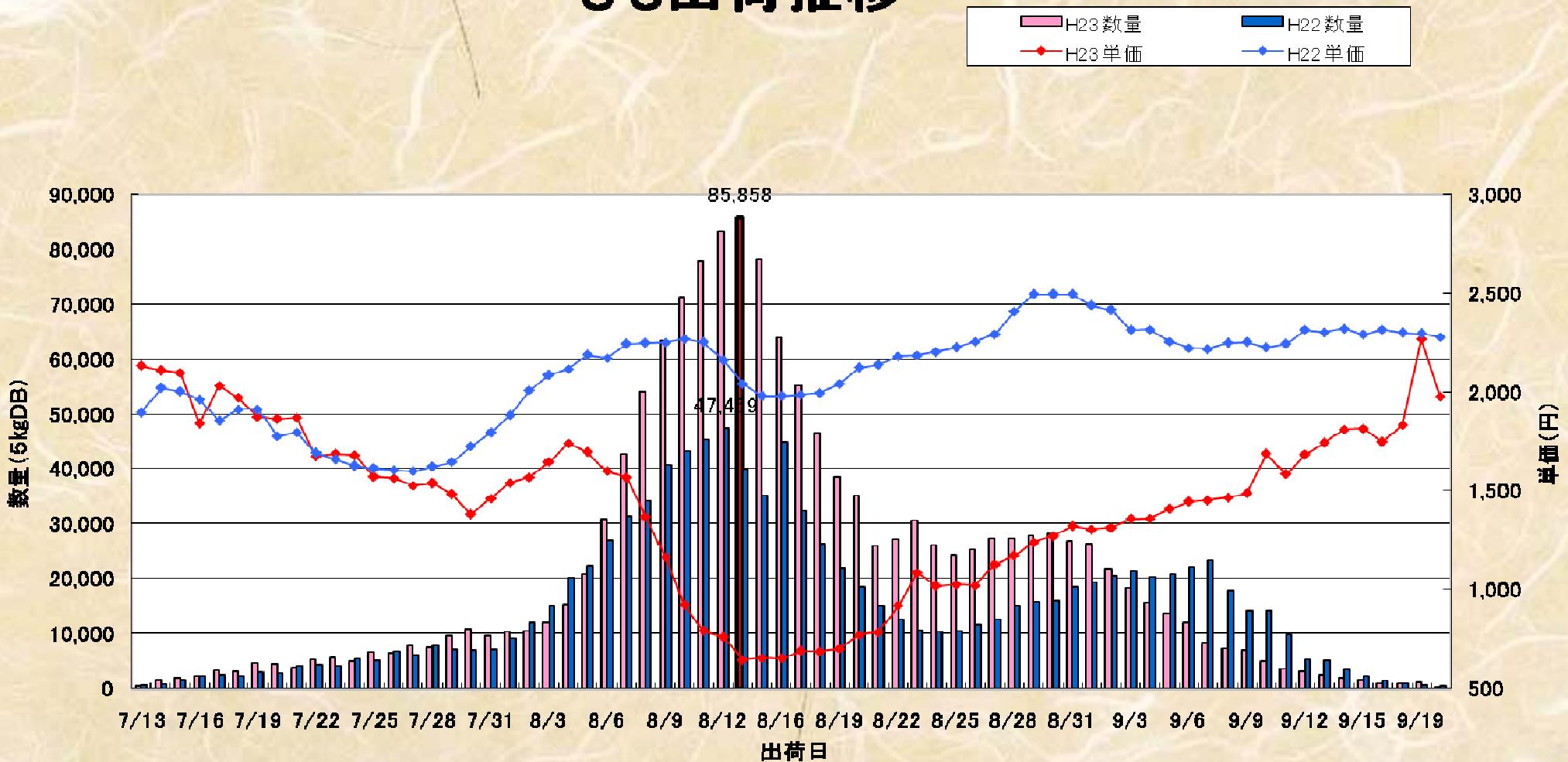
福島市の分析状況(平成23年11月30日分)

果実	226	162	100
穀類	3	1	2
牧草	2	2	0
野菜	165	23	142
米	434	99	335
分析総数	830	287	543
JA管内総分析数	1,365	587	808



## ②稻藁と牛肉は、桃の販売環境を激変

### もも出荷推移



### ③JA各種団体企業との連携による販売促進



長野市自治労第83回定期大会



埼玉県和光市の本田技研工業(株)



JA 北魚沼大農業祭



窓口職員も販促体験

## ④大波地区米からの630ベクレル検出と波紋

緊急「大波放射線量500ベクレル越え」

11月14日JA測定により判明、福島市での測定、県での測定630ベクレル

16日県公表JA会見午後9時

17日JA主催対策会議(県市JA関係機関団体)

17日大波地区出荷停止措置発表

18日大波地区生産者緊急会議(全袋検査要請、東電国への抗議等)

21日県大波地区検査体制等方針

(大波地区全袋検査、管内全戸検査 50袋対1、未検出地域100袋対1)

関係機関等協力し早期検査をすることとした。

12月 2日県の分析で渡利エリアからも500ベクレルを超え検出



平成23年産米集荷検査実績報告書										
検査日: 平成23年11月30日 (水)										
単位:袋/30kg										
地区コード	地区名	目標数量(新規需要米含)	出荷米目標	予約数量	検査実績累計	本日の検査数量	目標達成率	予約対比	前年対比 23年/22年	22年産検 査数量
400	北福島	8,900	7,400	8,163	10,092	177	136.4%	123.6%	164.0%	6,152
410	東部	2,400	2,200	3,144	4,448	214	202.2%	141.5%	257.6%	1,727
420	南	25,700	18,700	24,761	26,551	229	142.0%	107.2%	169.5%	15,660
430	飯坂	4,700	4,600	5,503	6,907		150.2%	125.5%	177.4%	3,893
440	吾妻	13,500	12,400	13,446	14,501	333	116.9%	107.8%	139.1%	10,426
450	松川	19,300	14,900	15,652	19,094		128.1%	122.0%	155.1%	12,314
460	川俣飯野	15,500	9,800	10,379	10,601	183	108.2%	102.1%	83.9%	12,630
合計		90,000	70,000	81,048	92,194	1,136	131.7%	113.8%	146.8%	62,802

平成23年産米 前年比150% 販路開拓終えた矢先

止まる米の流通 !

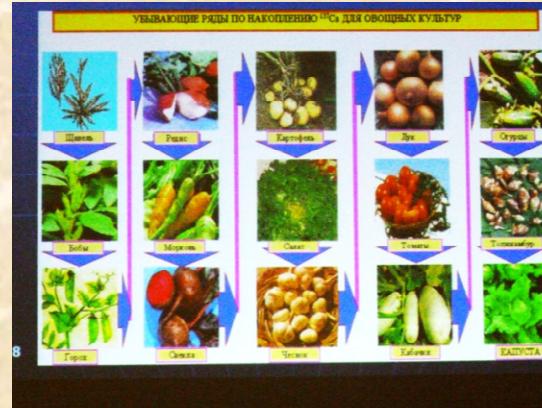
# 6. 実態把握と実践

## ①ベラルーシ・ウクライナに学ぶ

(2011. 10. 31～11. 7)



国立警備隊研究所  
移動式ホールボディカウンター2台  
説明



ベラルーシ科学アカデミー付属放射線研究所  
放射線量の移行係数別状況表



コマリン村中等学校における放射線測定と教育状況(一緒に測定し子供の放射線等教育)



チェルノブイリ原発事故(煙突右が石棺に覆われた4号機・石棺といえるものではない)  
人間の科学力で制御できない科学・原子力の  
恐ろしさを体現



チェルノブイリ原発都市プリチャビの中央公園  
(当時45,000人在住)  
今は、鬱蒼と樹木茂る街



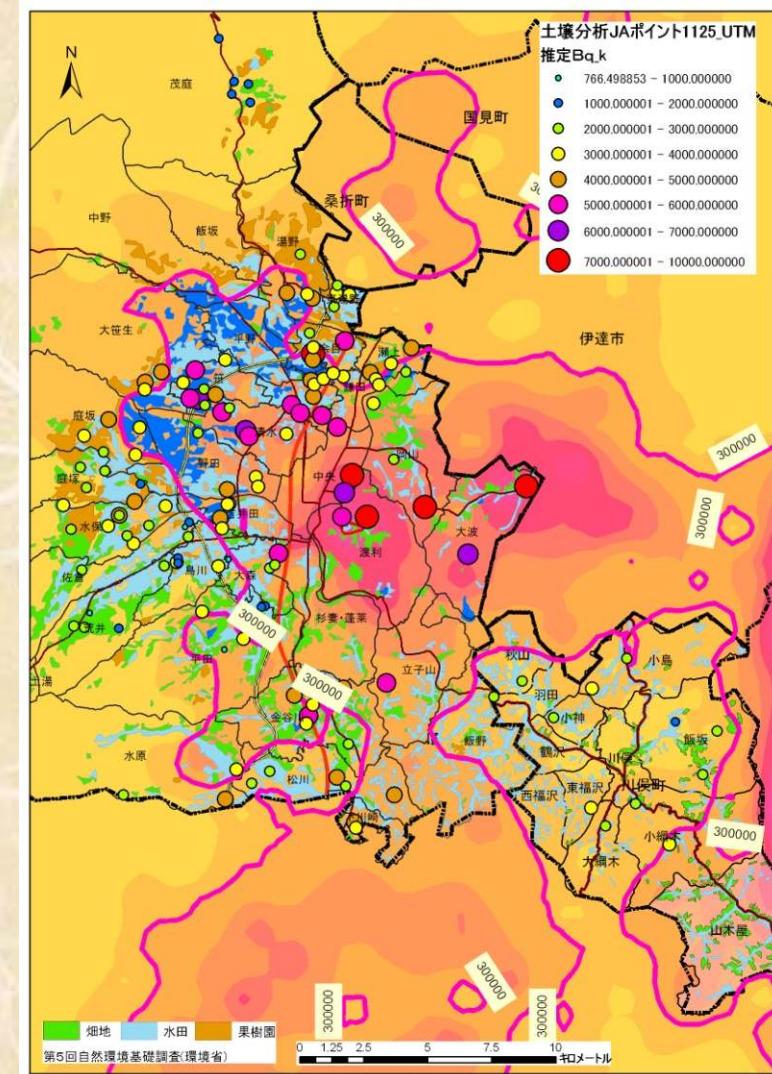
首都キエフの中心地にある市場

## ②土壤調査(260か所)と一筆調査計画(簡易測定)

- 1)生産農家の不安(自分の田畠の汚染状況)払拭と再生へ向けての結集
- 2)除染対策の明確化(ランク別対応策)
- 3)消費者との連携による地域活動



ATOMTEX社製分析器(GPS対応)



### ③樹木除染の実験と実践(除染協議会設立)



## 7. 喜びと笑顔あふれる福島(心はひとつ明るい未来に輝くふくしま)

### ①JA綱領の実践

#### J A 綱領

##### わたしたち J A のめざすもの

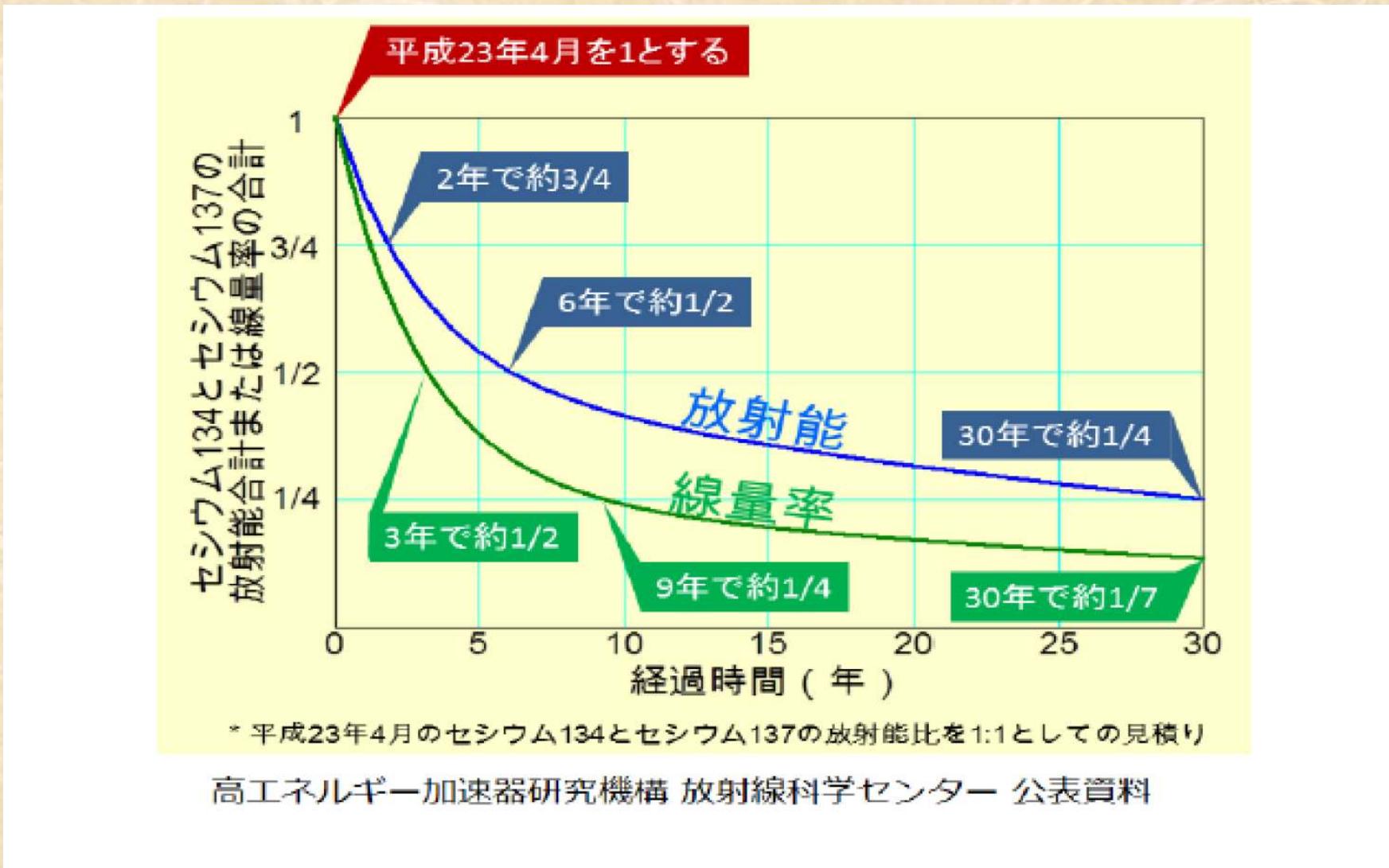
わたしたち J A の組合員・役職員は、協同組合運動の基本的な定義・価値・原則（自主、自立、参加、民主的運営、公正、連帶等）に基づき行動します。そして、地球的視野に立って環境変化を見通し、組織・事業・経営の革新をはかります。さらに地域・全国・世界の協同組合の仲間と連携し、より民主的で公正な社会の実現に努めます。

このため、わたしたちは次のことを通じ、農業と地域社会に根ざした組織としての社会的役割を誠実に果たします。

わたしたちは、

1. 地域の農業を振興し、わが国の食と緑と水を守ろう。
1. 環境・文化・福祉への貢献を通じて、安心して暮らせる豊かな地域社会を築こう。
1. JAへの積極的な参加と連帶によって、協同の成果を実現しよう。
1. 自主・自立と民主的運営の基本に立ち、JAを健全に経営し信頼を高めよう。
1. 協同の理念を学び実践を通じて、共に生きがいを追求しよう。

## ②命と暮らしを守る放射線防護総合研究センターを福島に



### ③畑に田んぼに子供たちの声あふれる故郷に



④永久に「地域のど真ん中にあるJA新ふくしま」を目指して

# 地域の経済と文化の中心にJA

「いいこと、やれることは何でもやろうよ」がスタンス=みんな組合員・職員の提案

経済行動を通じ喜びのある参画を実現し得る  
組織活動の展開が、農協運動

指示事項 地元マスコミとの連携(適時の情報提供)

自己満足の広報活動からの脱却、対外広報強化

週間予定表に取材依頼表示(毎日1本目指す)週2~3本

活動進化のサイクル《文化運動→農業振興→文化  
運動(食・環境)→農業振興(原風景)》



報道記者懇談会  
現場を見て欲しい観点から共選場  
と桃園地で開催



○地域のど真ん中にJA(農協)がある

